

# 2014年3月期第2四半期 決算説明会

2013/11/14

日本ライフライン株式会社

- **第2四半期決算報告**
- **通期業績予想**

専務取締役管理本部長  
**政次 浩二**

## ■ 2014年3月期 第2四半期累計 連結業績

### 1. 売上高は前年同期比10.3%増加

- － 心腔内除細動システムの浸透
- － 生体弁の伸長
- － 胸部ステントグラフトの導入

### 2. 自社製品の構成比増加

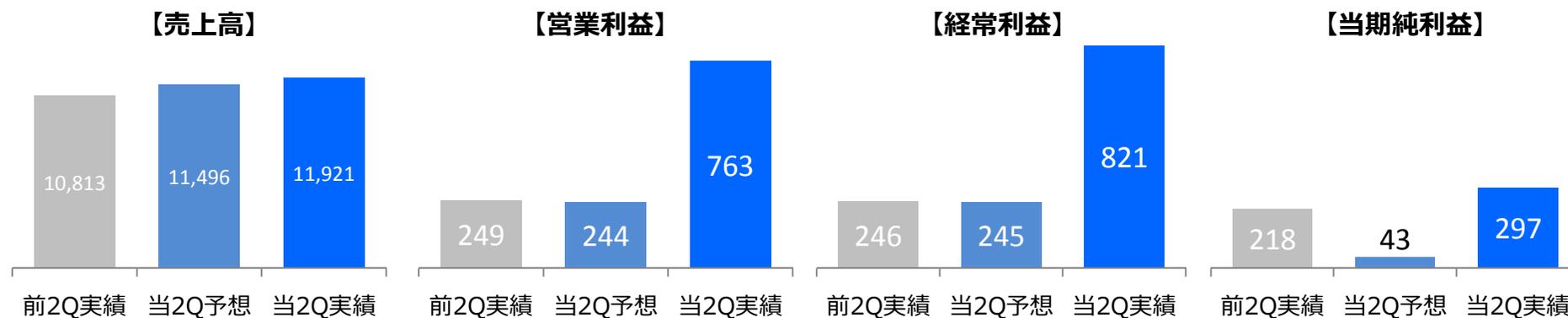
- － 売上総利益率は1.4ポイント改善

### 3. 営業利益は前年同期比 205.4%増加

- － 商品導入計画の見直しに伴う費用の減少
- － 広告宣伝費等の予算執行の遅れ

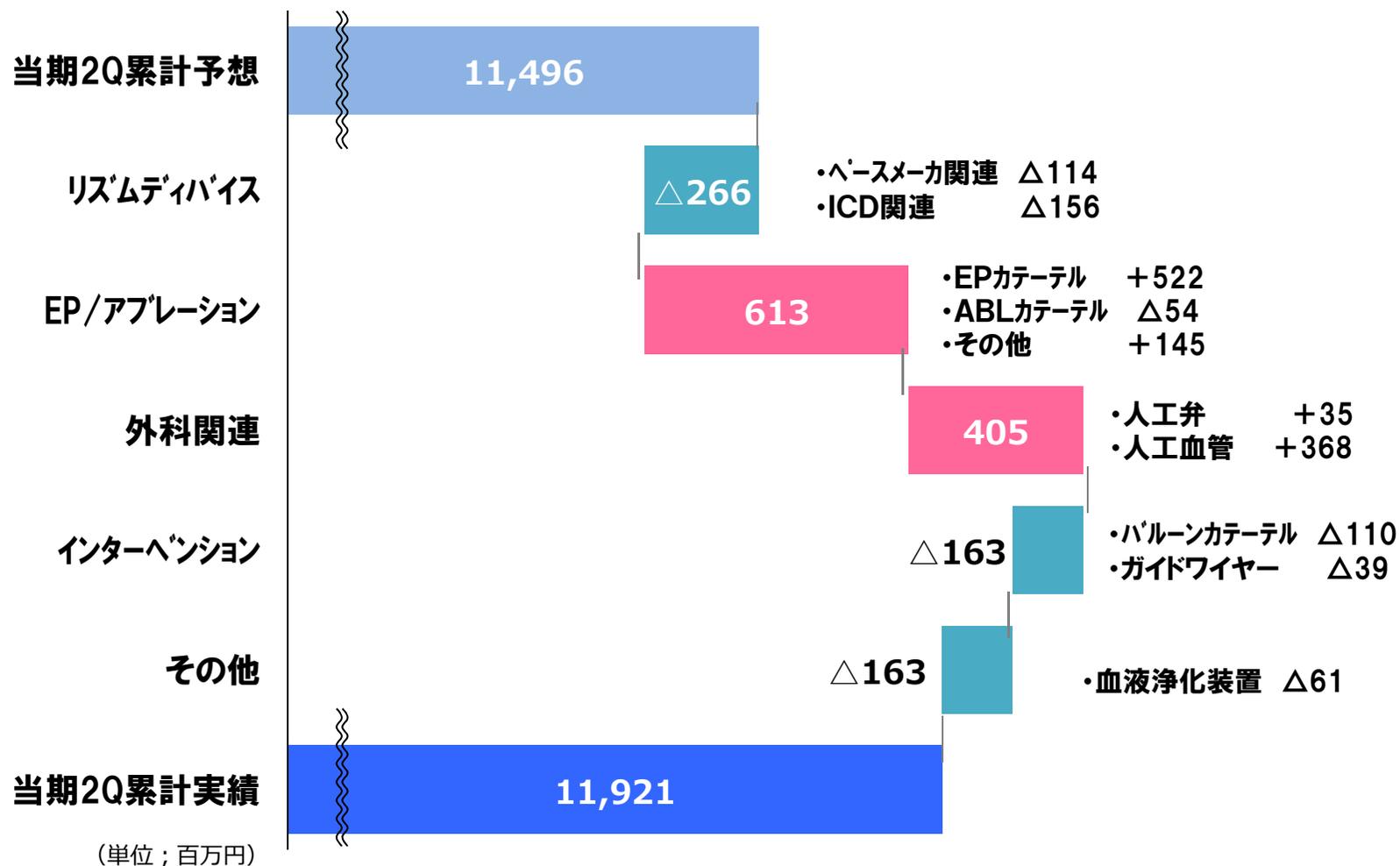
## ■ 2014年3月期 第2四半期累計 連結業績

(百万円)	前期2Q累計	当期2Q累計			
	実績	当初予想	実績	前年同期比	予想比
売上高	10,813	11,496	11,921	10.3%	3.7%
営業利益	249	244	763	205.4%	212.8%
経常利益	246	245	821	233.2%	234.9%
当期純利益	218	43	297	36.3%	578.9%



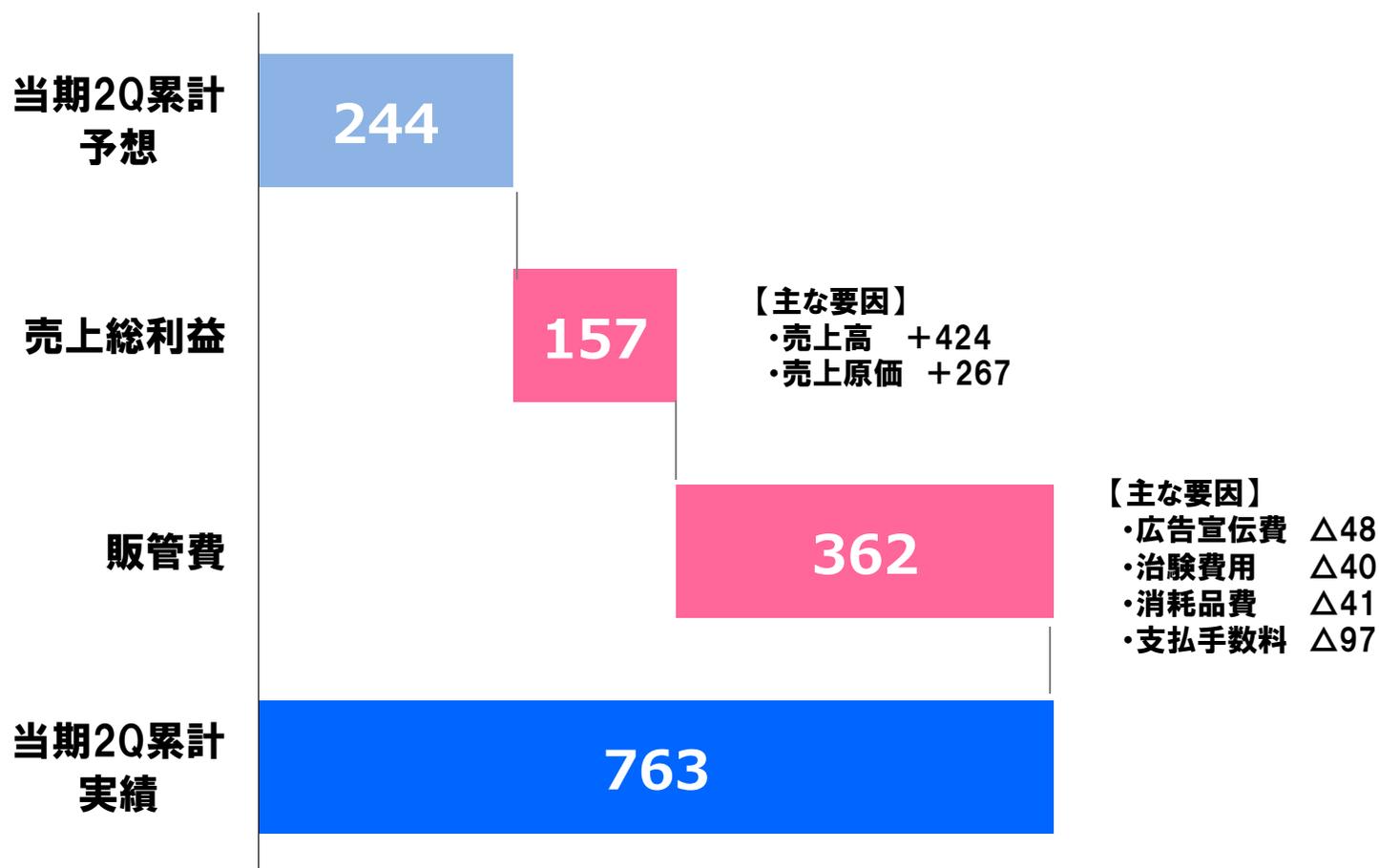
# ■ 第2四半期累計 連結売上高

対予想 +424百万円(3.7%増)



## ■ 第2四半期累計 連結営業利益

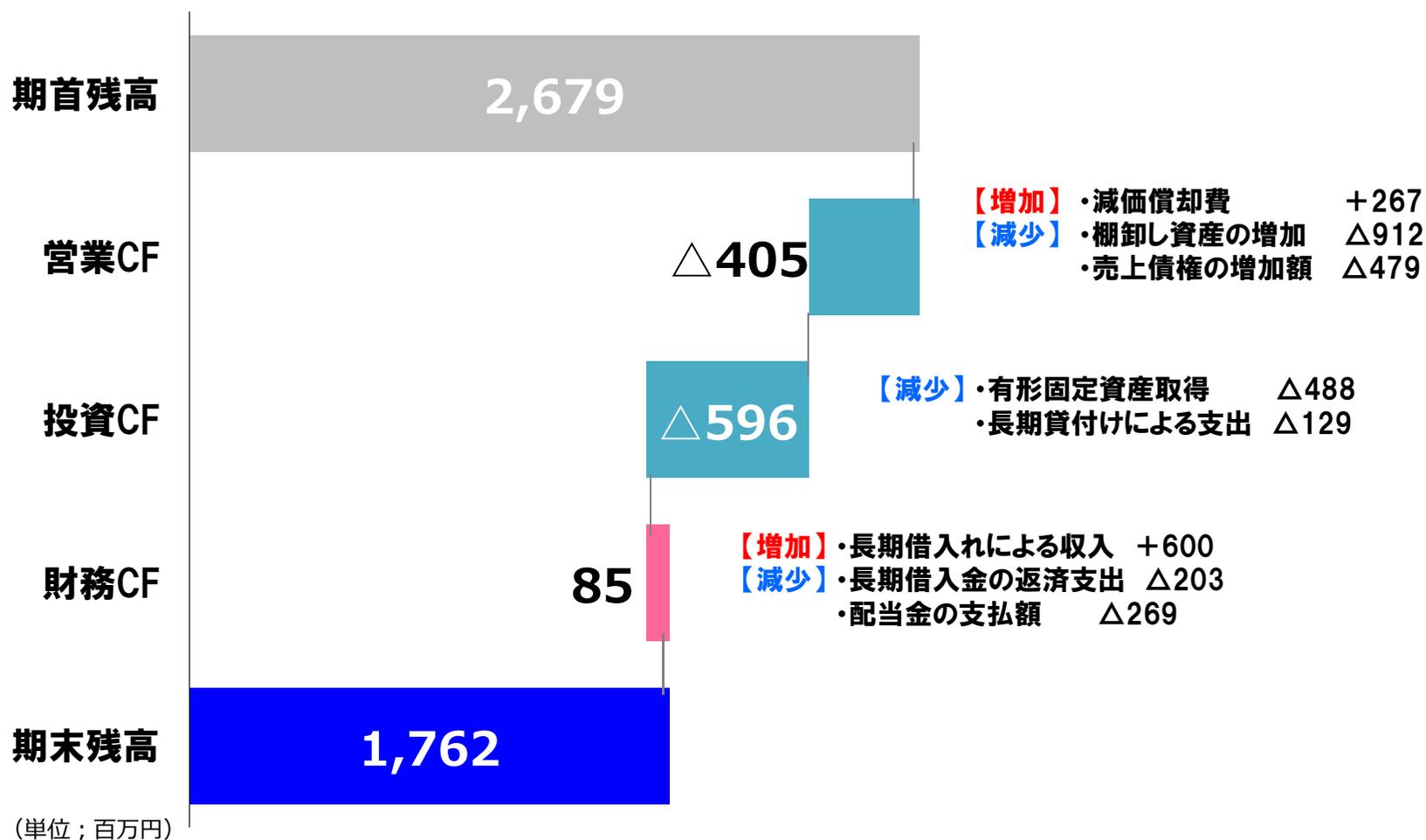
対予想 +519百万円(212.8%増)



(単位 ; 百万円)

# ■ キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物  $\Delta 916$ 百万円



# ■ 2014年3月期 通期 連結業績予想

4月30日付業績予想を修正(10月28日)

## 1. 売上高は当初予想比2.6%増加

- － 前期比では12.6%増加
- － 心腔内除細動システム、生体弁、ステントグラフトの伸長
- － リズムデバイスは減少を見込む

## 2. 営業利益は当初予想比10.5%増加

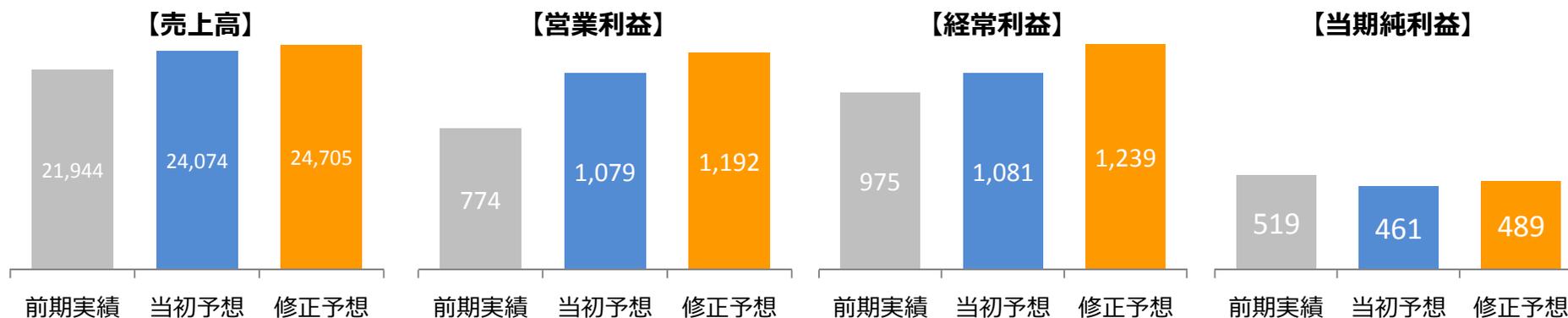
- － 前期比では53.9%増加
- － 新商品導入に係る薬事関連費用の発生を見込む

## 3. 当期純利益は当初予想比6.1%増加

- － 前期比では5.8%減少(前期は特別利益を計上)

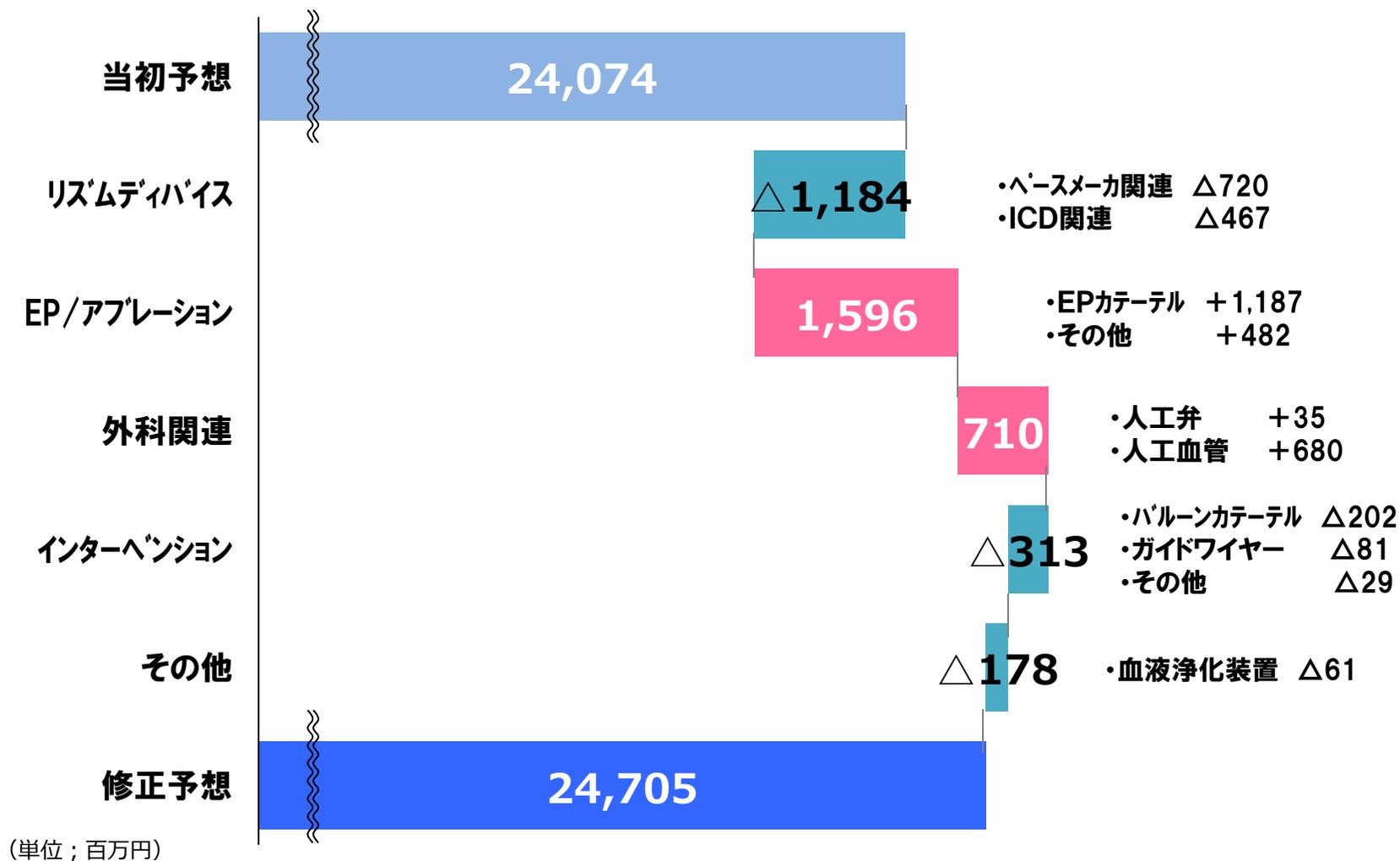
## ■ 2014年3月期 通期 連結業績予想

(百万円)	前期 2013/3期	当期 2014/3期			
	実績	当初予想 4/30付	修正予想 10/28付	前期比	当初予想比
売上高	21,944	24,074	24,705	12.6%	2.6%
営業利益	774	1,079	1,192	53.9%	10.5%
経常利益	975	1,081	1,239	27.1%	14.7%
当期純利益	519	461	489	△5.8%	6.1%



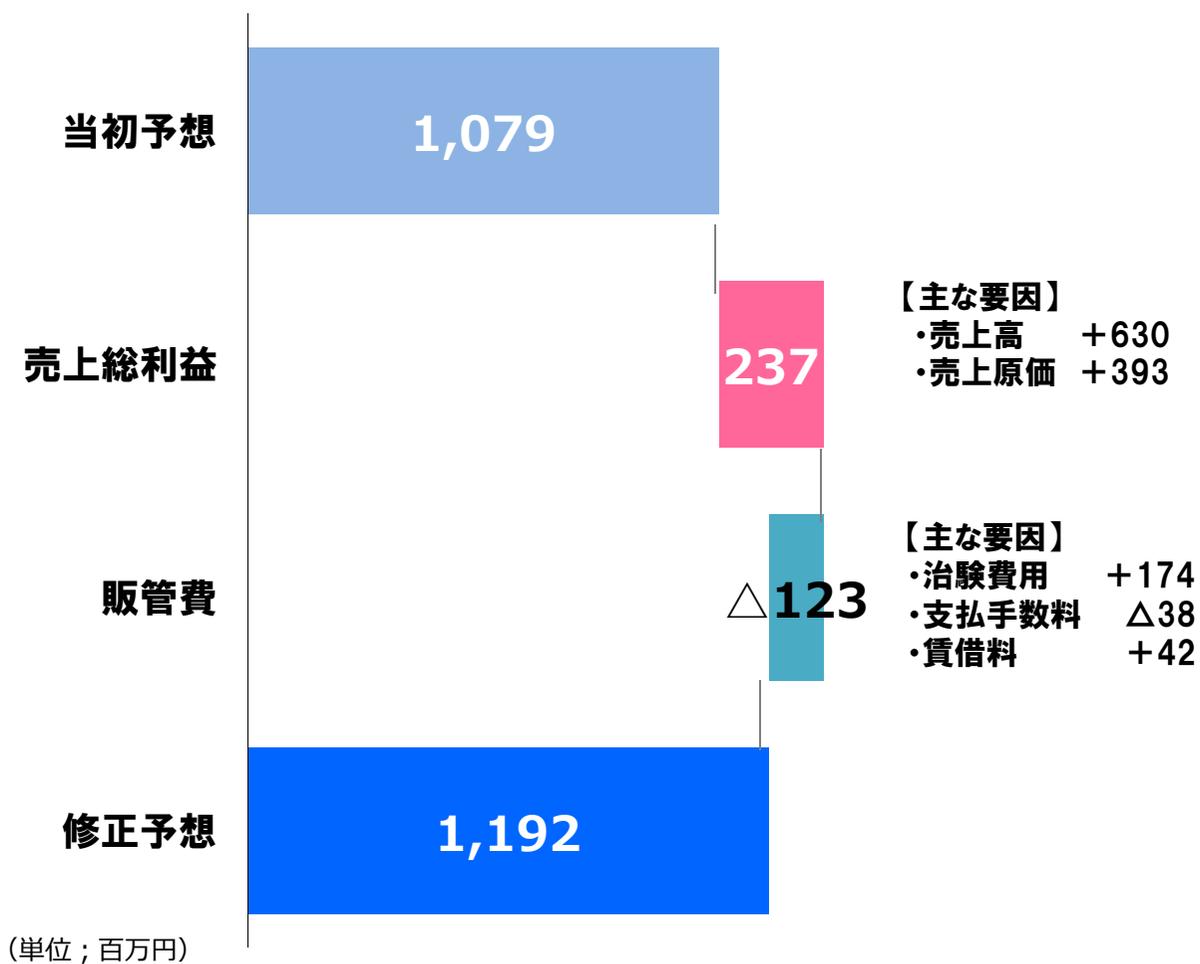
# ■ 通期 連結売上高予想

対当初予想 +630百万円(2.6%増)



## ■ 通期 連結営業利益予想

対当初予想 +113百万円(10.5%増)



## ■ (資料) 連結売上高 品目別

(百万円)	2013年3月期		2014年3月期				備考
	2Q累計 (実績)	通期 (実績)	2Q累計 (実績)	対前期	通期 (予想)	対前期	
ペースメーカー関連	4,053	7,328	3,026	-25.3%	5,440	-25.8%	
I C D 関連	636	1,253	551	-13.4%	1,234	-1.5%	
その他	46	93	49	5.7%	104	11.0%	
リズムデバイス計	4,737	8,676	3,627	-23.4%	6,779	-21.9%	
EPカテーテル	1,893	4,404	3,144	66.1%	6,569	49.1%	自社製品 心腔内除細動カテーテル含む
ABLカテーテル	828	1,620	806	-2.7%	1,621	0.0%	自社製品
その他	56	155	248	338.4%	792	408.5%	自社製品含む
EP / ABL計	2,778	6,181	4,199	51.1%	8,983	45.3%	
人工弁関連	324	881	827	155.3%	1,717	95.0%	
人工肺関連	213	443	175	-17.8%	343	-22.7%	子会社販売商品含む
人工血管関連	646	1,408	1,201	86.0%	2,674	89.9%	子会社製品含む ステントグラフト含む
外科関連計	1,183	2,733	2,204	86.2%	4,735	73.2%	
バルーン	584	1,176	521	-10.8%	1,033	-12.2%	
ガイドワイヤー	305	572	264	-13.4%	550	-4.0%	自社製品
その他	502	1,082	548	9.2%	1,164	7.6%	フィルタラップ含む
インターベンション計	1,392	2,831	1,335	-4.1%	2,747	-3.0%	
その他	721	1,521	555	-22.9%	1,459	-4.1%	
合計	10,813	21,944	11,921	10.3%	24,705	12.6%	

## ■ (資料) 連結損益計算書

(百万円)	2013/3月期				2014/3月期					
	2Q累計 (実績)		通期 (実績)		2Q累計 (実績)			通期 (見通し)		
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	前期比	金額	構成比	前期比
売上高	10,813	100.0%	21,944	100.0%	11,921	100.0%	10.3%	24,705	100.0%	12.6%
売上原価	5,377	49.7%	10,681	48.7%	5,761	48.3%	7.1%	11,866	48.0%	11.1%
売上総利益	5,435	50.3%	11,262	51.3%	6,160	51.7%	13.3%	12,839	52.0%	14.0%
販管費	5,185	48.0%	10,487	47.8%	5,396	45.3%	4.1%	11,646	47.1%	11.0%
営業利益	249	2.3%	774	3.5%	763	6.4%	205.4%	1,192	4.8%	53.9%
営業外収益	42	0.4%	238	1.1%	100	0.8%	136.6%	171	0.7%	-28.0%
営業外費用	45	0.4%	37	0.2%	41	0.4%	-8.4%	124	0.5%	231.2%
経常利益	246	2.3%	975	4.4%	821	6.9%	233.2%	1,239	5.0%	27.1%
特別利益	248	2.3%	250	1.1%	0	0.0%	-99.9%	0	0.0%	-99.9%
特別損失	55	0.5%	134	0.6%	126	1.1%	129.0%	126	0.5%	-5.7%
税引前利益	439	4.1%	1,091	5.0%	695	5.8%	58.1%	1,113	4.5%	2.0%
法人税等	221	2.0%	571	2.6%	397	3.3%	79.6%	623	2.5%	9.1%
当期純利益	218	2.0%	519	2.4%	297	2.5%	36.3%	489	2.0%	-5.8%

## ■ (資料) 補足データ

(百万円)		2010/3期	2011/3期	2012/3期	2013/3期	2014/3期 (予想)
設備投資額		502	2,089	1,715	1,336	1,526
減価償却費		279	301	383	565	573
研究開発費		381	372	517	557	613
期末従業員数 (名)	単体	453	479	509	519	557
	連結	515	546	581	595	637

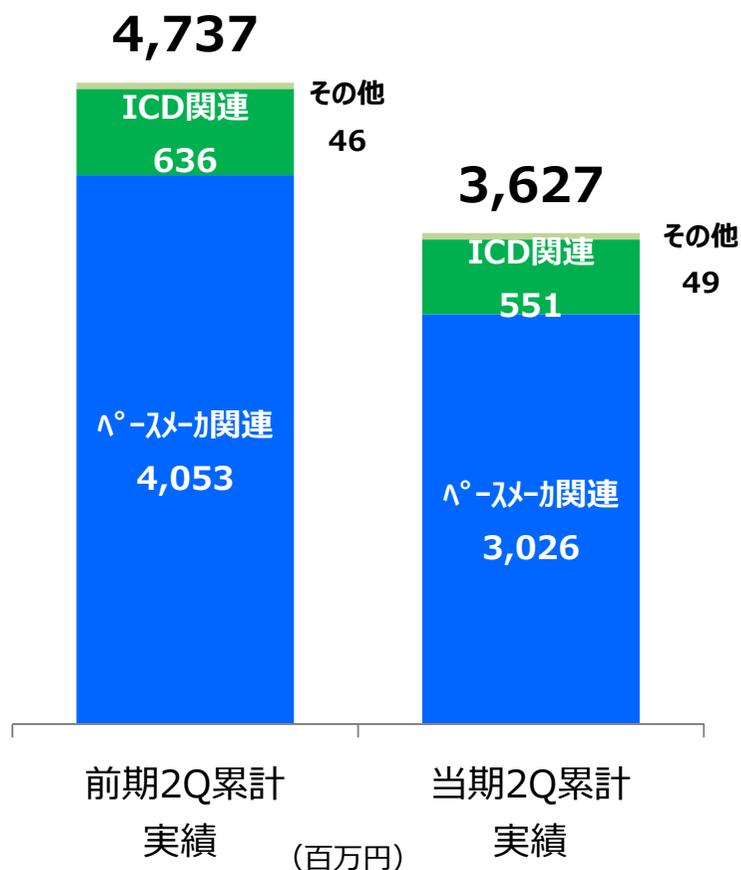
## ■ 事業の現況と見通し

代表取締役社長  
鈴木 啓介

## ■ リズムデバイス 2Q累計実績

売上高 前年同期比

△23.4%



### ● ペースメーカー関連

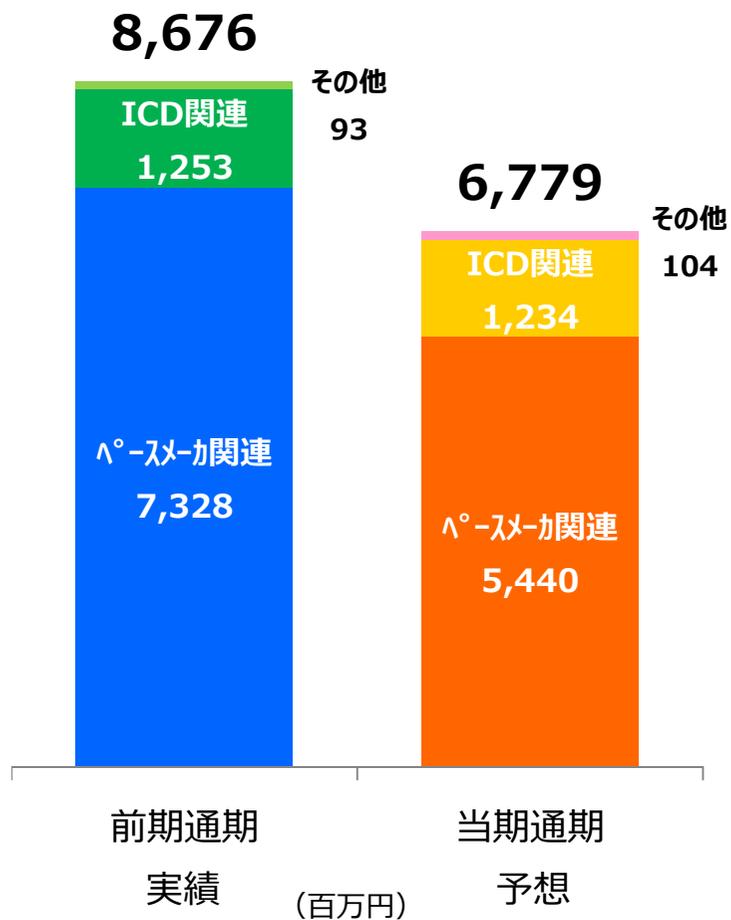
- 他社のMRI(磁気共鳴画像)検査対応商品の影響により売上高が減少
- 同機能を持つ当社商品の導入を急ぐ

### ● ICD関連

- 市場は拡大傾向
- 厳しい競争環境のなか売上高は減少

## ■ リズムデバイス 通期見通し

売上高 前期比  
**△21.9%**



- **ペースメーカー関連**
  - 厳しい競争環境が続く見通し
- **ICD関連は遠隔モニタリングの導入を開始**
  - 「SMARTVIEW」モニタリングシステム
  - 「PARADYM RF CRT-D/VR/DR」



左：「スマートビューモニター」  
 右：「PARADYM RF CRT-D」

## ■ リズムデバイス 見通し

### • 遠隔モニタリングシステム「SMARTVIEW」

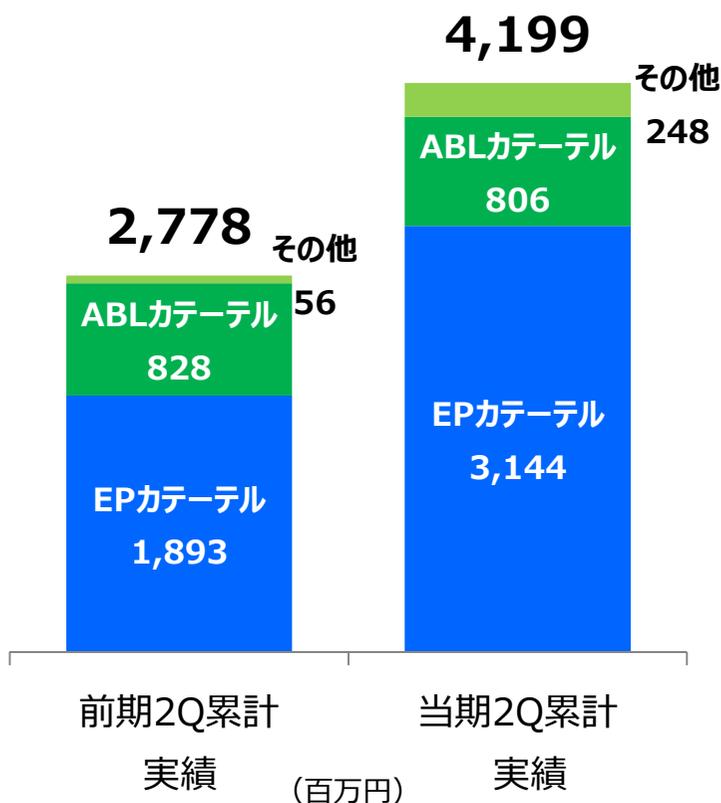
- 患者様宅内に設置された送信機より施設へデータを送信
  - 適時にデバイス状況のチェックが可能
  - 事前にデータの確認ができ、効率的な定期検査が可能



## ■ EP/アブレーション 2Q累計実績

売上高 前年同期比

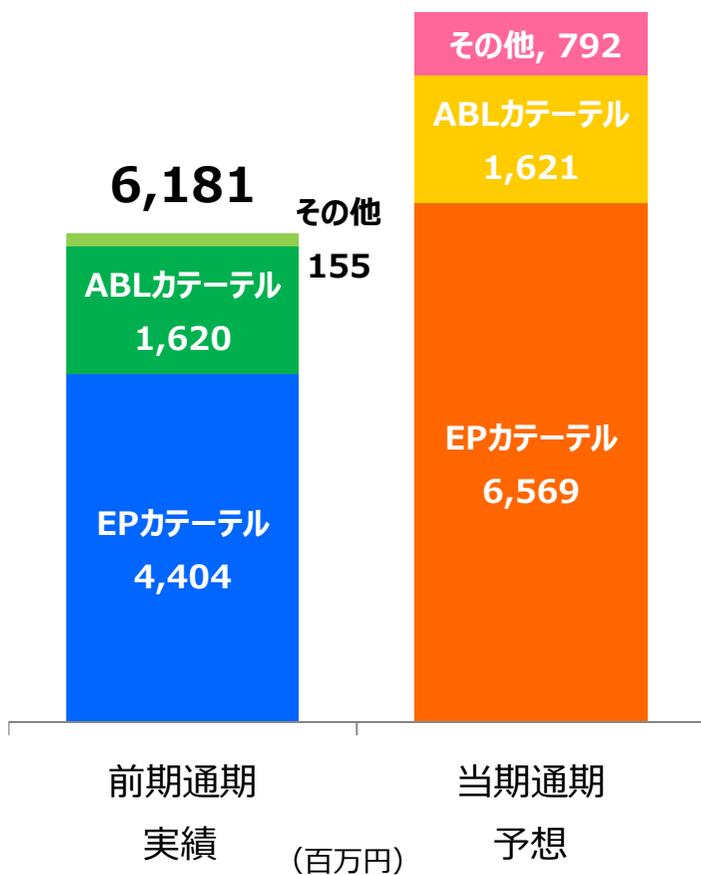
+51.1%



- **心腔内除細動システムが寄与**
  - 専用カテーテル「BeeAT」が伸長
  - 自社開発のオンリーワン製品
  - EP診断用カテーテル売上高 前年同期比66.1%増
- **ABLカテーテルは前年同期水準を維持**
- **オンリーワン商品の本格導入**
  - 高周波心房中隔穿刺システム 専用カテーテル「RFニードル」
  - 手技の安全性・確実性を高める

## ■ EP/アブレーション 通期見通し

売上高 前期比  
**+45.3%**  
 8,983



### ● EP診断用カテーテルは トップシェアを見込む

- 2013年市場シェア 約40%(金額ベース)
- 「BeeAT」の浸透による
- 既存EPカテーテルも好調に推移



心腔内除細動システム  
 専用カテーテル  
 「BeeAT」

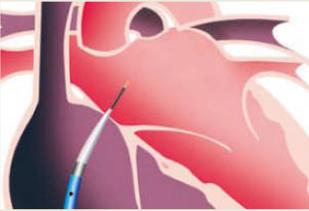
### ● 新商品の寄与

- 「RFニードル」
- ディフレクタブルシース「Destino」

## ■ EP/アブレーション 見通し

### ● 心房細動のアブレーション治療は症例増加を見込む

- 2013年度症例数 約28,000例、年20%以上の増加（当社推定）
- 関連商品のラインナップを強化し、成長機会を最大限に生かす
- さらにイリゲーション機能付ABLカテーテルの来期導入を目指す

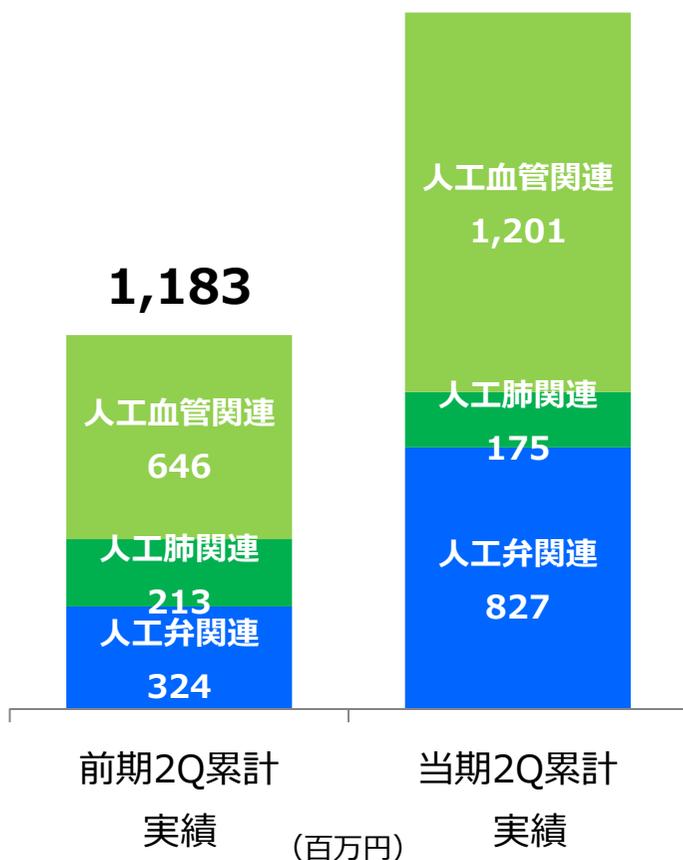
心腔内除細動システム	高周波中隔穿刺システム	ディフレクタブルシース
 <p>専用カテーテル 「BeeAT」</p>  <p>ジェネレータ 「SHOCK AT」</p>	 <p>専用カテーテル 「RFニードル」</p>  <p>ジェネレータ 「RFジェネレータ」</p>	 <p>ディフレクタブルシース 「Destino」</p>

## ■ 外科関連 2Q累計実績

売上高 前年同期比

**+86.2%**

2,204



### ● 人工弁関連が伸長

- 生体弁「Mitroflow」の寄与
- 狭小弁輪への植込み易さに評価
- 人工弁関連売上高  
前年同期比155.3%増

### ● 人工血管関連も新商品が寄与

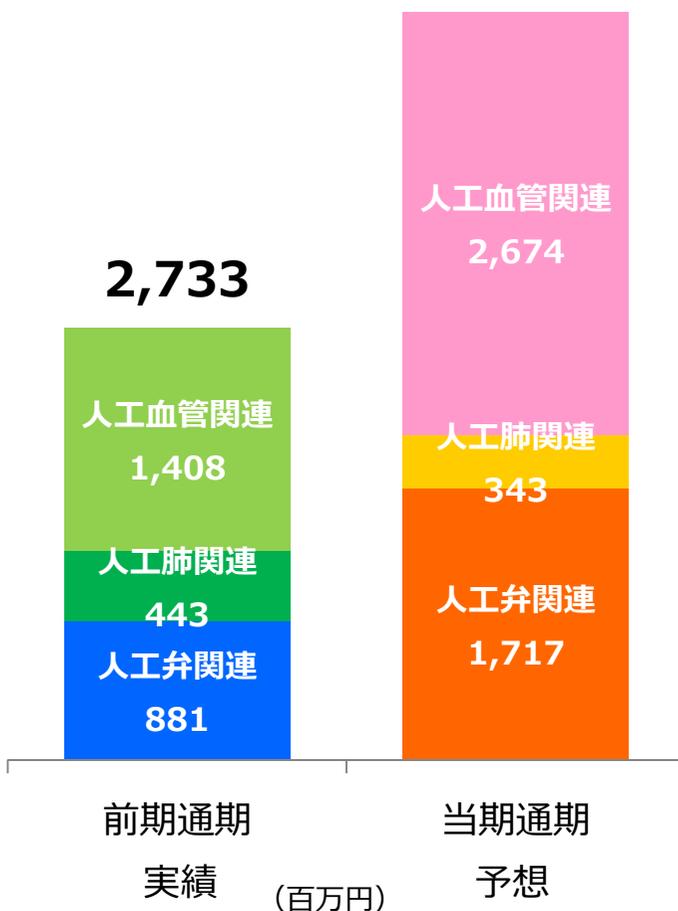
- 胸部用ステントグラフト「RELAY Plus」
- 本年5月発売
- 人工血管関連売上高  
前年同期比86.0%増



胸部用ステントグラフト「RELAY Plus」

## ■ 外科関連 通期見通し

売上高 前期比  
**+73.2%**  
 4,735



### ● 生体弁が牽引

- 人工弁関連売上高予想  
前期比95.0%増

- 人工弁輪「MEMO 3D」も寄与



生体弁「Mitroflow」



人工弁輪「MEMO 3D」

### ● スtentグラフトの成長が続く

- 人工血管関連売上高予想  
前期比89.9%増

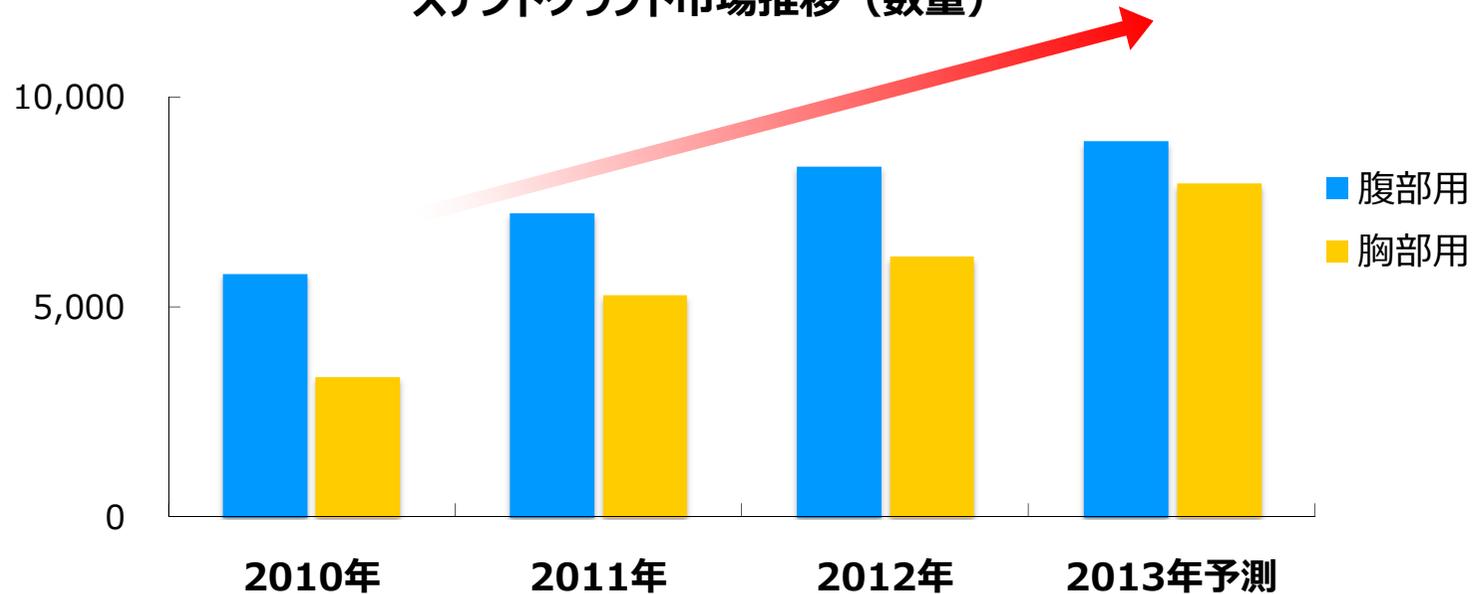
## ■ 外科関連 通期見通し

### ● スtentグラフト市場はさらに拡大

- 参入企業の増加により競争は激化
- 「RELAY Plus」により市場シェアの獲得を目指す
- 腹部用商品についても導入を計画

(単位;本)

Stentグラフト市場推移 (数量)



(アール アンド ディ社 「医療機器用品年鑑 2013年版」を基に作成)

## ■ 外科関連 見通し

### ● 国内初となるオープンステントグラフト

- 子会社JUNKEN MEDICAL社製品
- 開胸手術による胸部大動脈瘤治療の効率化に寄与
- 来期の上市を目指す

### ● ステントグラフトも次期商品の導入を計画

- 「RELAY NBS Plus」
- 従来品では困難な症例へも対応
- 2016年度中の上市を目指す

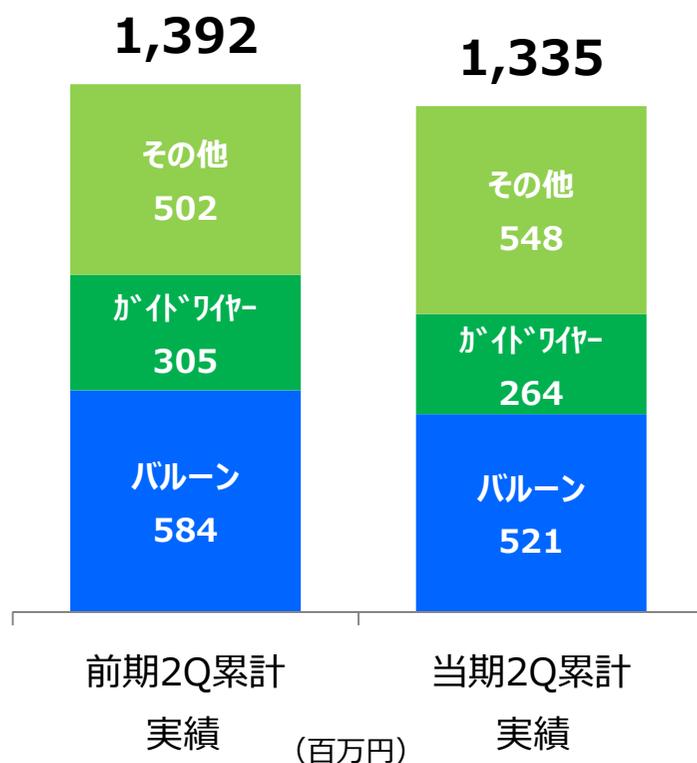


大動脈瘤治療領域を成長の柱として  
商品ラインナップを強化

## ■ インターベンション 2Q累計実績

売上高 前年同期比

△4.1%



- **バルーンは減少**
  - 「LIFESPEAR」発売から3年が経過
- **ガイドワイヤー**
  - 冠動脈用製品は減少
  - 末梢用製品は新製品が寄与し増加
  - 「Paddler」、「GLAIVE」

ATHLETE 0.018" Peripheral Guide Wire  
**Paddler**

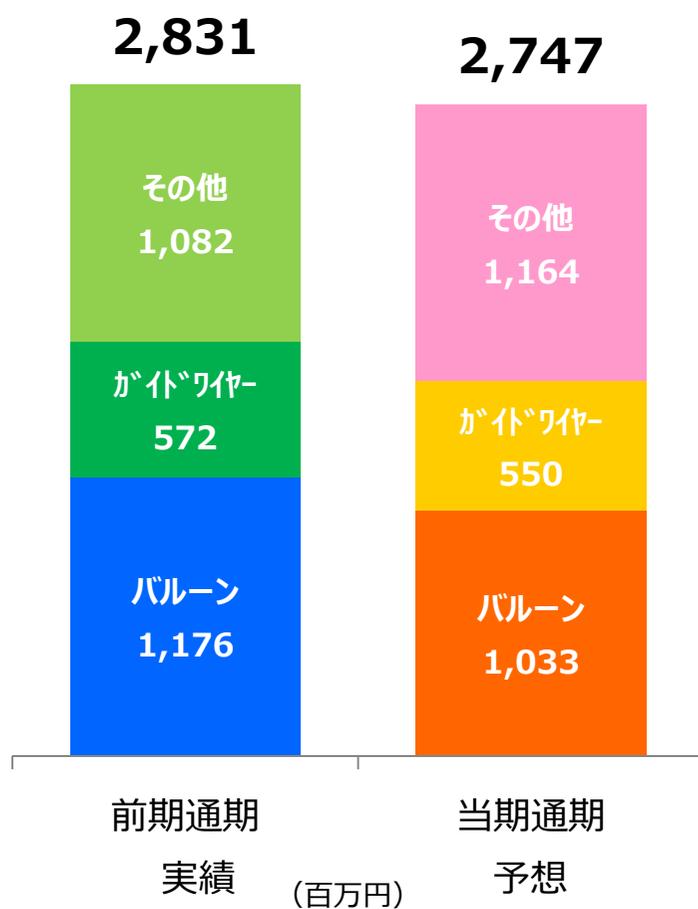
ATHLETE 0.018" Peripheral Guide Wire  
**GLAIVE**

- **ベアメタルステント**
  - 「S-Stent」が増加

## ■ インターベンション 通期見通し

売上高 前期比

△3.0%

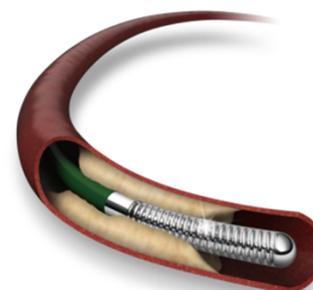


### ● バルーン

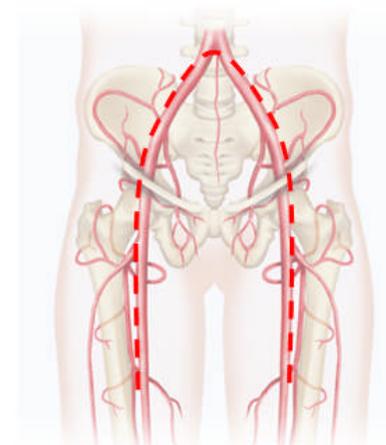
- 「LIFESPEAR」の拡販
- 次期製品の開発

### ● ガイドワイヤー

- 冠動脈用製品「JOKER」  
第一選択ワイヤーとして改めて訴求
- 末梢用製品はさらなる拡販を進める



末梢用ガイドワイヤー  
「GLAIVE」



## ■ インターベンション 見通し

### • 商品ラインナップの充実を図る

- Vascular Solutions社(米)製品
- マイクロカテーテル「SuperCross」
- 貫通用カテーテル「GuideLiner」
- 当期末までの導入を予定

**SuperCross**<sup>™</sup>  
catheters

**GuideLiner**<sup>™</sup>  
Catheter

### • 自社製バルーンの導入

- PTCAバルーン「canPass」
  - 柔軟性を追求したセミコンプライアントバルーン
  - 自社製品としての高い収益性を期待
  - 来期の本格導入を目指し準備を進める

**canPass**  
RX PTCA Balloon Catheter

## ■ インターベンション 見通し

### ● 中長期を見据え製品開発を進める

- 下肢動脈用DEB (Drug Eluting Balloon:薬剤溶出型バルーン)
- 末梢動脈疾患(PAD)に対し、薬剤の溶出により拡張部位の再狭窄を抑え治療する
- 高齢化、生活習慣の変化等により症例数は増加傾向
- 2017年の上市を目指す

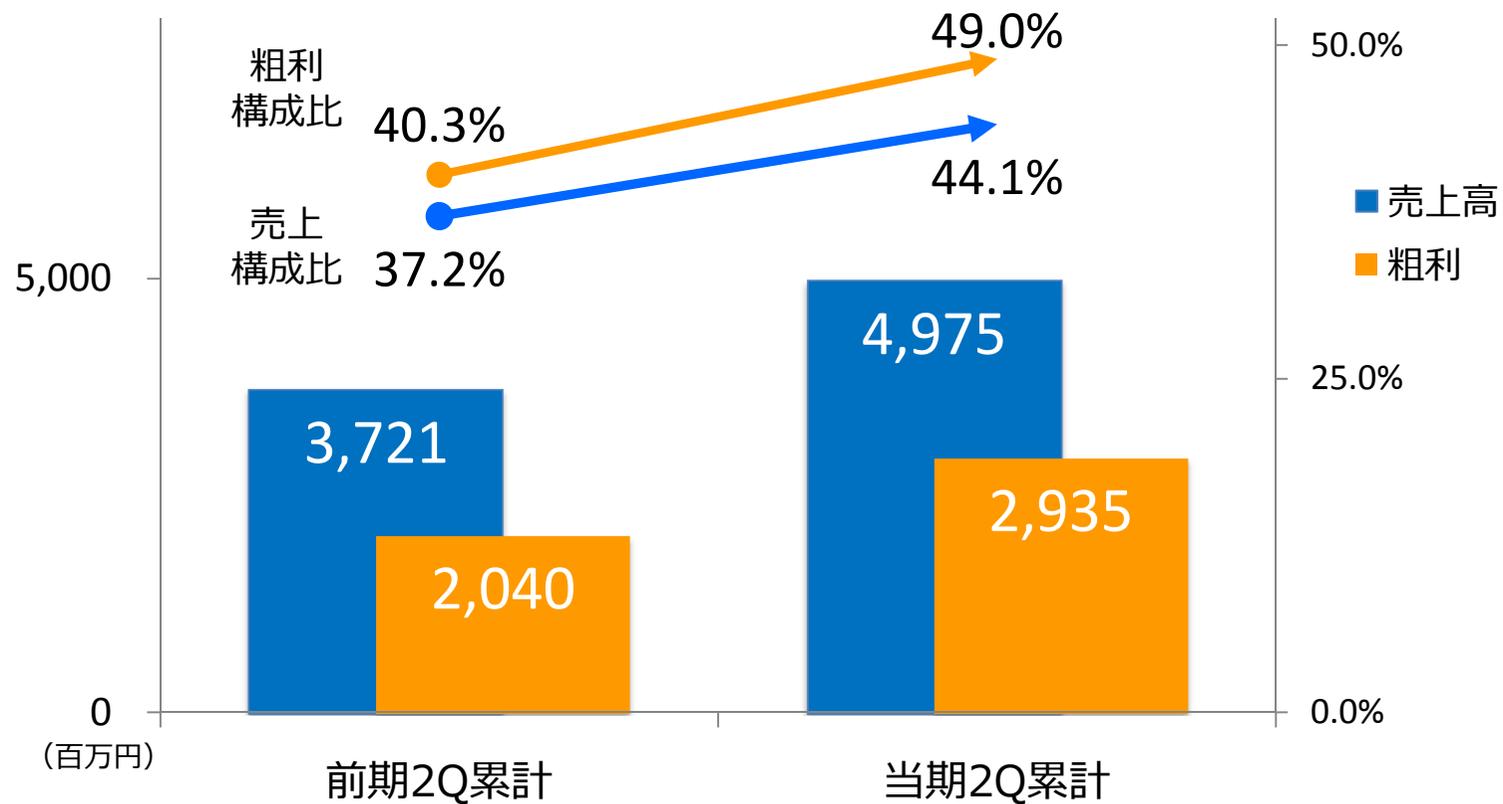
#### ■ PAD (Peripheral Arterial Disease)

末梢動脈疾患は、動脈硬化により下肢などの末梢血管が狭窄または閉塞し、血流が遮られることにより発生する疾患です。足のしびれや冷え、痛みなどのほか、重症化すると潰瘍や壊死により足の切断に至るケースもあります。高齢化、生活習慣の変化等による動脈硬化のほか、糖尿病などの複数の疾患の合併症としても増加しています。

## ■ 自社製品の状況

### ● 業績への寄与が高まる

－ 心腔内除細動システムの伸長による



(※単体ベースに占める自社製品比率 子会社製人工血管を含む)

## ■ 自社製品の状況

### ● 自社製品の生産基盤を強化

- 栃木県小山市に新工場を建設中
- 来期下期の稼働を目指す
- 成長が続く自社製品の中長期にわたる生産力を確保

#### ■ 小山工場概要

所在地： 栃木県小山市（小山東工業団地）

用地： 22,504.4m<sup>2</sup>（6,820坪）

建屋： 鉄骨2階建

延床面積： 約4,526m<sup>2</sup>（1,372坪）

投資額： 約16億円

生産品目： E Pカテーテル、A B Lカテーテル、ガイドワイヤー

生産工程： 検査・包装・滅菌

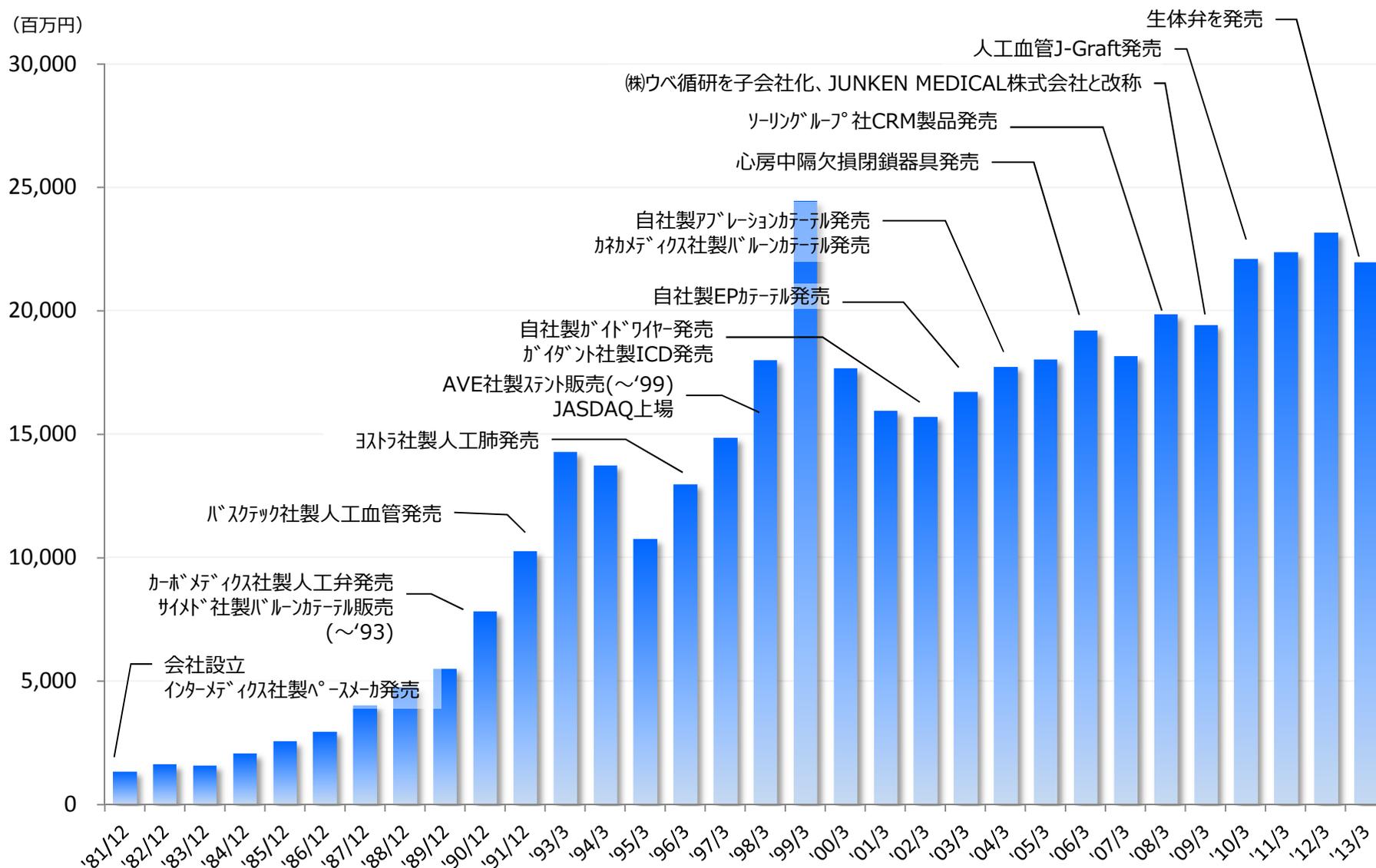
**End of Presentation**

# 会社概要

## ■ 会社概要

商号	日本ライフライン株式会社
代表者	代表取締役社長 鈴木啓介
本社	東京都品川区東品川2-2-20 天王洲郵船ビル
設立	1981年2月6日
上場	1997年12月8日 東証JASDAQ
証券コード	7575
事業内容	医療機器の輸入、製造および販売
資本金	2,115百万円
従業員数	連結595名/単体519名（2013年3月末現在）
事業所	営業拠点33ヶ所、ディストリビューションセンター、リサーチセンター、戸田ファクトリー、天王洲ACCADEMIA（研修センター）

# ■ 当社歴史と売上高の推移



## ■ 事業領域

当社は創業以来、不整脈や心筋梗塞等の心疾患を治療するための医療器具を扱っており、事業領域はリズムデバイス、EP/アブレーション、外科関連、インターベンション、その他の5つに大別されます。

### EP/アブレーション

不整脈の検査や治療を行うための、ディスプレイ式電極のついたカテーテル（細い管）を扱います。

### リズムデバイス

心臓ペースメーカー  
ICD  
CRT-D  
イベントレコーダー

### リズムデバイス

不整脈（心臓の拍動が正常よりも遅くなるまたは早くなる状態）を治療する、主に体内植込み型の器具を扱います。

### EP/アブレーション

EPカテーテル  
心腔内除細動カテーテル  
アブレーションカテーテル

### 心臓循環器

### 外科関連

人工血管  
ステントグラフト  
人工心臓弁  
人工弁輪  
人工肺関連

### その他

（子会社販売商品）  
血液浄化関連商品

### インターベンション

カテーテル（細い管）を皮膚を通して血管に挿入し、心筋梗塞等の治療を行う器具を扱います。外科手術に比べ、患者さんへの負担が小さい治療法です。

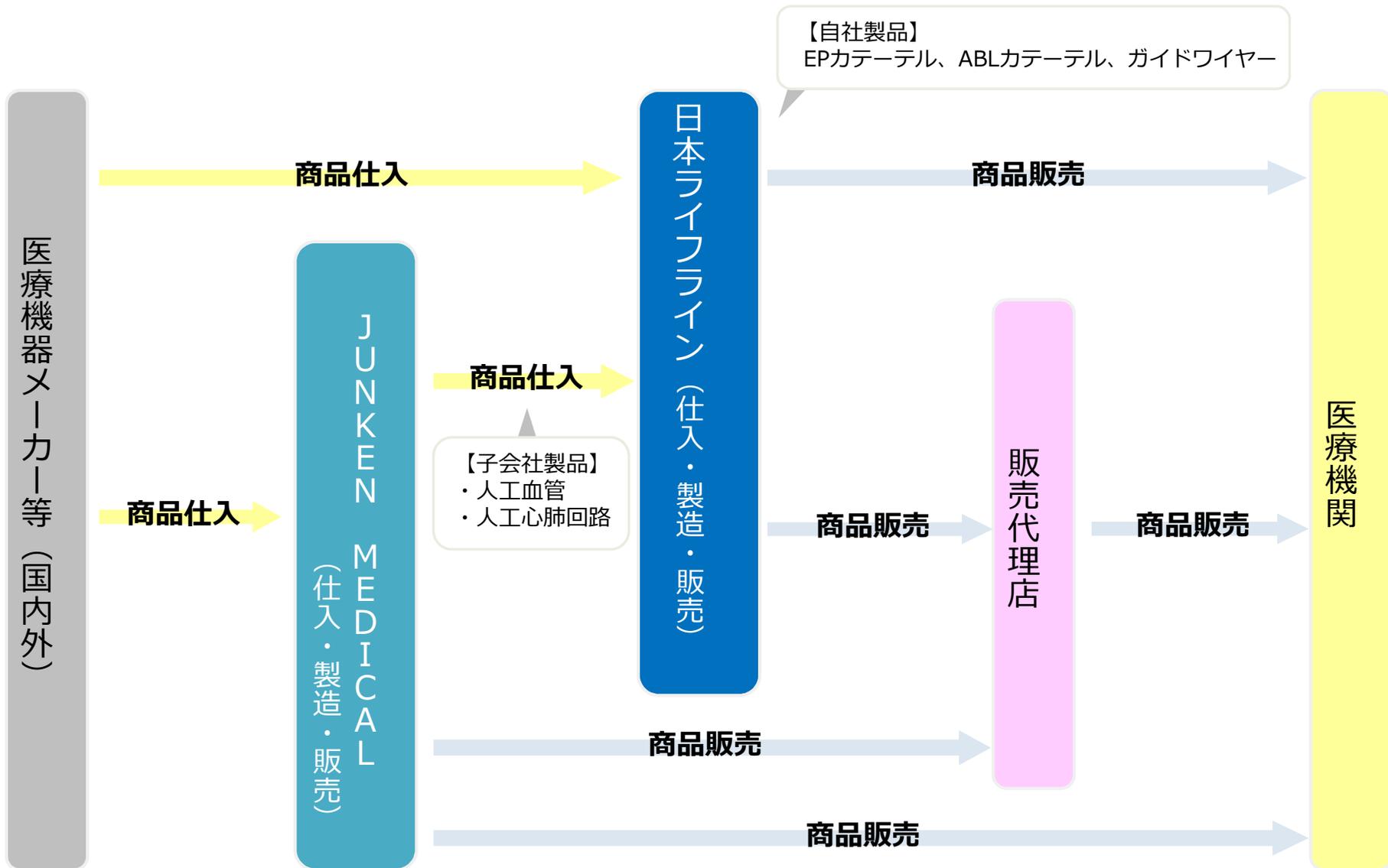
### インターベンション

ガイドワイヤー  
バルーンカテーテル  
血栓異物除去  
カテーテル

### 外科関連

本来の機能が失われてしまった血管や、心臓の弁を、外科手術により人工の器官に置き換え、治療するための器具を扱います。

## ■ 事業の系統図



## ■ 商品紹介 リズムデバイス

### 心臓ペースメーカー

(SORIN GROUP社製)



心臓の拍動が正常よりも遅くなる不整脈（徐脈）に対して、人工的に電気刺激を与えることで拍動を保ちます。

心臓の拍動が異常に早まる不整脈（頻脈）のうち、致死性の不整脈である心室細動の発生を検知し、電気ショックを与えることで、拍動を正常な状態に戻します。

### ICD（植込み型除細動器）

(SORIN GROUP社製)



### CRT-D（除細動機能付き両心室ペースメーカー）

(SORIN GROUP社製)



重症心不全に対して、心臓の左右両方の心室に電気刺激を与えることで、心臓の同期不全を整えポンプ機能を改善します。またICDと同様に除細動の機能も合わせ持っています。

長期間にわたって心電図を記録することで、短時間では出現しない異常や日常生活での心臓の状態を記録します。

### イベントレコーダー

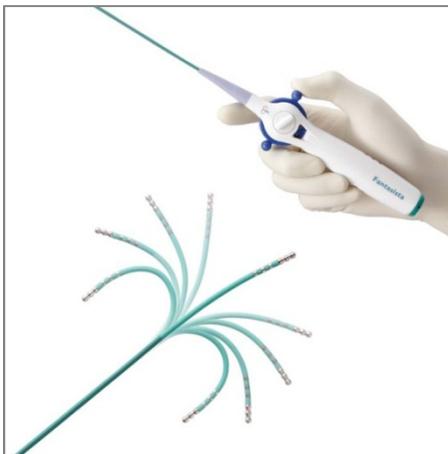
(SORIN GROUP社製)



## ■ 商品紹介 EP/アブレーション

### アブレーションカテーテル

(自社製品)

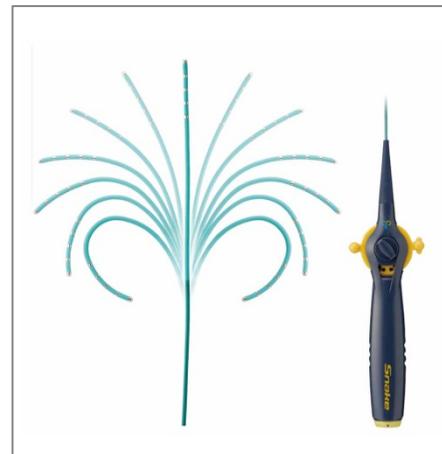


頻脈の原因となる心臓内の異常な電気刺激の経路を、カテーテル先端部の電極から流す高周波電流で焼き切ることにより治療します。

不整脈の診断や治療方法の適応を判断するための検査に用いられます。カテーテル先端に電極がついており、心臓内の電位を測定したり、不整脈を誘発させることで原因を特定します。

### EP（電気生理用）カテーテル

(自社製品)



### 心腔内除細動カテーテル

(自社製品)

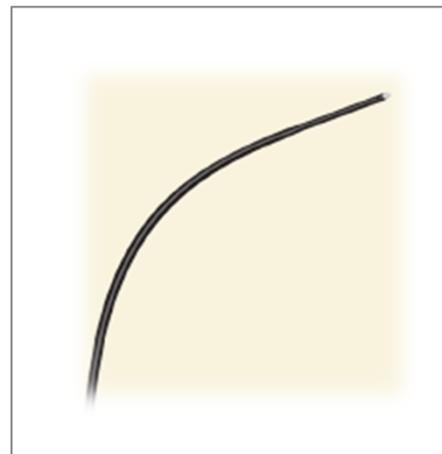


アブレーション治療の際に発生する心房細動に対し、心腔内で除細動を行うことにより、低侵襲に心房細動を停止させます。またEPカテーテルとしての診断機能も合わせ持っています。

アブレーション治療などの際に、左右の心房の間にある壁（心房中隔）に、カテーテルを通すための穴を高周波により開ける際に使用します。

### 高周波心房中隔穿刺針

(BAYLIS MEDICAL社製)



## ■ 商品紹介 外科関連

### 人工心臓弁

(SORIN GROUP社製)

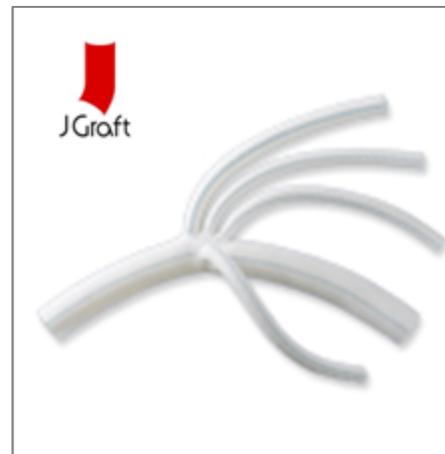


心臓内の血液の逆流を防ぎ、正しい流れを保つために機能している心臓弁が、十分に開かなくなったり、完全に閉じなくなった場合に、人工心臓弁に置き換え、本来の機能を回復させます。

動脈瘤（動脈の壁に瘤ができ、場合によっては破裂、出血する）などで痛んだ血管を切り取って人工血管に置き換えたり、バイパスとして使用します。

### 人工血管

(JUNKEN MEDICAL社製)



### 人工弁輪

(SORIN GROUP社製)



心臓弁の疾患に対し、人工心臓弁に置き換えずに、自己の弁を温存し縫合等により治療する際に使用します。

人工血管とは異なり、開胸手術を行うことなく、足の付け根の血管からカテーテルを通じて、治療部位に留置し大動脈瘤を治療します。

### ステントグラフト

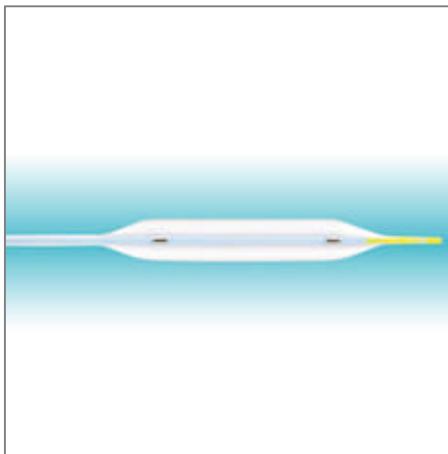
(BOLTON MEDICAL社製)



## ■ 商品紹介 インターベンション

### バルーンカテーテル

(カネカメディックス社製)



心臓の筋肉に酸素や栄養を送る血管（冠動脈）が詰まることが原因となる心筋梗塞や狭心症の治療に用いられます。血管の詰まった部分で風船（バルーン）を拡張させ、再度血流を確保します。

### ガイドワイヤー

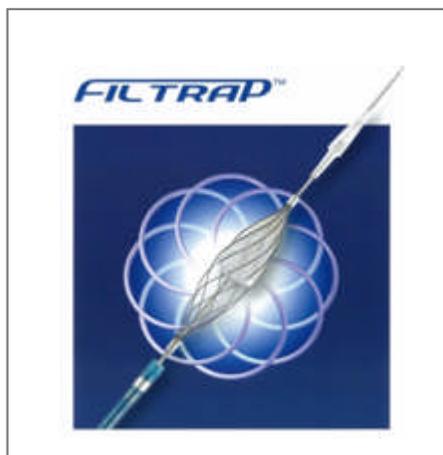
(自社製品)



バルーンカテーテルを血管の詰まった部分に導くために用いられます。ガイドワイヤーを血管の詰まった部分の先まで通過させ、これに沿ってバルーンカテーテルを進めます。

### 血管内異物除去用カテーテル

(ニプロ社製)



血管内の浮遊血栓等の血管内異物を捕捉または除去するカテーテルです。バスケットがフィルター型のため血流を確保することができます。

## ご注意事項

本資料の記載内容のうち、歴史的事実でない事項は、日本ライフラインの将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。特に、商品や製品に関し、治験に関する事項、薬事法の承認に係る事項、および発売時期につきましては、過去の経験や入手可能な情報から得られた当社の予測であります。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本資料記載の見通しと異なる可能性がありますので、これらの見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

### 本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社  
経営管理部

TEL: 03-6711-5214

E-Mail: [ir@jll.co.jp](mailto:ir@jll.co.jp)

URL: <http://www.jll.co.jp>